

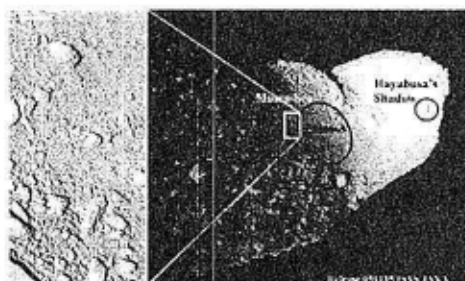
しょうわくせいたんさき

小惑星探査機「はやぶさ」

2005 年 11 月 20 日、日本が打ち上げた小惑星探査機「はやぶさ」が、小惑星の着陸に世界で初めて成功しました。小惑星への着陸は、アメリカなどの宇宙探査の先進国でも、まだできていないことです。

「はやぶさ」は、小惑星「イトカワ」（この名前は、日本のロケットの先駆者故郷の故郷）を探索し、そのかけらを地球に持ち帰るために、2003 年 5 月 9 日に打ち上げられました。その後、太陽のまわりを約 2 周、約 9 億 km もの飛行の末、2005 年 9 月に「イトカワ」のすぐ近くまで到着しました。

「イトカワ」は、わずか 500m ほどの小さな天体で、この時、地球からおおよそ 3 億 km もはなれたところにありました。



イトカワの表面

画像: ISAS/JAXA

「はやぶさ」はゆっくりと、「イトカワ」に接近し鮮明な映像をたくさん送ってきました。「イトカワ」は細長い形をしていて、表面がごつごつした岩でおおわれている様子がわかりました。解像度の高いものでは 1cm くらいのもので見分けられるため、小惑星の画像としては、いままででもっとも鮮明なものです。

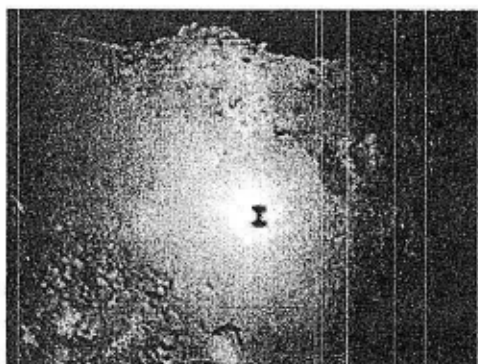
着陸の直前に 88 万人の署名の入ったマーカーも打ち込み、その時にはね返ってきた「イトカワ」のかけらを採取する計画でした。

残念ながら、その後、地球との通信がうまくできなくなったため、かけらの採取に成功したかどうかはわかっていません。それどころか地球に戻れない可能性もあります。

現在、懸命な復旧作業が行われており、うまく行けば 2010 年には地球に戻る予定です。

「はやぶさ」の活躍は、日本の宇宙探査技術が世界の最先端レベルにあることをアピールしました。今後、「はやぶさ」が無事地球に戻ってくることを楽しみに待ちましょう。

（布村克志）



小惑星に写った「はやぶさ」の影
画像: ISAS/JAXA